

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800144		
法人名	社会福祉法人 合歓木の会		
事業所名	グループホーム 第二百日紅の家		
所在地	高知県土佐清水市グリーンハイツ20番21号		
自己評価作成日	平成23年4月28日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームには庭や畑があり、四季折々の花木や野菜を堪能できる環境がある。出来る。地域の日本舞踊の方々との定期的な交流がある。兄弟法人の幼稚園の園児と日常的に交流し、運動会や夕涼み会、秋祭り等の行事を通して地域住民との交流を深めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3970800144&SCD=320&PGD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年6月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興団地の一角にあり、法人のグループホームや他の経営体の高齢者賃貸住宅が隣接している。法人のグループホーム合同の秋祭りには団地外からの多くの住民の参加があり、系列法人の幼稚園児と2~3日毎に触れ合ったり、小学校の運動会や学芸会などの見学にも出かけている。運営推進会議を通じて利用者が町内会の集会所でのカラオケ大会に参加するためバリアフリー化を要望するなど、地域の一員としての関係が築かれている。代表者と職員の意思疎通を図り、業務改善や利用者本位の支援策を講じている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名： 第二日紅の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングで理念について話し合いを持ち、皆で共有しながら実践している。	法人の理念を基に事業所独自の理念を作成している。目に触れる場所に理念を掲げるとともに、ケアに当たった職員の心構えなどを振り返り、利用者の自立した生活を目指し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長場でのカラオケ教室に参加したり、ホームの夕涼み会や秋祭りには地域の方々にも参加してもらうなど、できるだけ地域とつながりのある場面づくりをしている。また、イベントや外食の際には、近所の店に弁当を注文している。	地区会の行事に参加したり、法人のグループホーム合同の秋祭りを通して多くの住民と交流している。また、小学校の運動会などに招待されたり、日常的に幼稚園児や近隣の高齢者住宅の利用者とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園児との触れ合いや行事を通して、認知症について理解を深めてもらったり、市の認知症の講演会に協力するなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を受けてホームで話し合い、改善点等について会議に報告し、委員の意見等はサービスの向上に活かしている。	事業所から利用者や運営などの状況を報告するとともに、評価結果についても議題にあげ、参加委員と双方向的に話し合っている。取り組みの評価を受けたり、地区の集会所のバリアフリー化の申し入れの機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当職員に運営推進会議を通してホームの内情を理解してもらっている。また、日頃から相談したり相互に協力し合う関係を築いている。	事業所の便りを届けるとともに、ケア等について電話で相談したり照会したりしている。また、市主催の認知症の講演会運営に、事業所として協力するなど、日頃からの関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やホームでの学習会を通して身体拘束について理解を深め、拘束をしないケアを行っている。また、日中は玄関は施錠しないようにしている。	幡多ブロックの身体拘束に関する研修会に参加し、伝達講習を行い職員の理解を深めている。言葉による行動抑制についても職員間で注意し合っている。外出傾向のある利用者も敷地内で散歩することが多く、近隣の介護施設の見守り体制も確立している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で学習会を持ち、理解を深め、虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の研修にも参加し、全職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や改定内容などについて、家族に十分説明し、納得してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に置いてある意見箱や第三者の相談窓口などの活用はみられないが、運営推進会議での話し合いや、面会や電話等で家族からの意見等を聞き、運営につなげている。	運営推進会議の後に家族会を開催しているが、参加者は2～3人と少なく、運営推進会議の議事録は便りと合わせて全家族に送付している。面会時のコミュニケーションづくりが心がけ、利用者の身の回り品の準備や整理などの意見があり、ケアにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者(施設長)は毎朝ホームに顔を出して職員に声をかけ、管理者も毎日職員と話し合い、意見や提案を聞きながらよりよいホームづくりを目指している。	月1回の職員会には法人職員も参加し、職員との意思疎通を図っている。職員間で意見等を取りまとめ、業務の改善や懐かしい歌謡曲をBGMにするなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(施設長)は、職員一人ひとり業務内容を把握し、実績に応じて手当支給などの配慮をしたり、福利厚生事業を通して職員の仕事へのやりがいづくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力や経験に応じた研修や資格取得などを積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月毎に市内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行うとともに、勉強会や研修会を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たな入居者には寄り添い、話す機会を多く持ち、早くホームや職員に慣れ安心して過ごせるよう信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から希望や悩みを聞く機会を設け、信頼関係を築いている。また、入居後も電話や手紙などで日頃の様子などを伝え、一緒に考えながら支援していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いで情報を収集するとともに、導入段階で暫定プランを作成し、必要としていることを皆で見極めて支援していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が一体となり、協力しあって日々の生活を過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も家族に相談し、本人の状況に応じて面会を依頼するなど、家族との関係を保ちながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた美容室、商店などに行ったり、昔からの友人宅に行ったり、昔住んでいた家を訪れるなど、馴染みの関係を継続していく生活を目指している。	行きつけの美容院や商店に出かけ店員と声をかけ合ったり、知人、友人の面会を受けたりしている。週に1回はドライブを兼ねて友人宅や自宅周辺に出向いたり、家族の協力を得ながらこれまでの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や性格を理解し、気の合う方同士で座ってもらったり、足腰の弱い方を元気な方が介助したり、いたわり合いながら生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても家族から相談を受けたり、行事に参加してもらったりし、面会に訪れたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのペースを最も重視し、本人の意見を聞き、食事時間や行きたい場所、今やりたいことなど、個別に把握するようにしている。	利用者の生活歴等を共有したうえで、日常の会話や何気ない仕草を見逃さないようにして個々の暮らし方の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を大切に、新聞を読むのが日課な方や散歩、買い物、動物の餌やりなど、それぞれのこれまでの暮らしぶりを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のちょっとした変化を見逃がさないように努め、その日の状態によって介助の仕方も臨機応変に対応できるよう、現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の施設長も含めた全職員参加のケア会議にて話し合い、また、家族にも電話や文書で連絡を取り合いながら、よりよい計画を作成している。	利用者、家族の意向を聞いたり、職員の気づきなども踏まえ、カンファレンスを通して介護計画を作成している。毎月計画担当者がモニタリングを行い、3カ月毎に見直している。また、退院後などには随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員に情報が行き渡るように毎朝のミーティング、申し送りノート、休みの職員には電話で連絡をするなど、日々の様子を皆が把握し、よりよい介護を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時話し合いを持ったり、家族とも相談しながら状態の変化に柔軟に対応できる支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店に買物に行ったり、一人での外出を見かけた場合は近所の方が電話をかけてくれたり、ボランティアによる歌や、踊りを楽しむなど、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する病院で受診し、状態によっては短期の入院をしたり、長期にわたる場合には家族と連絡を取りながら退院時期等について主治医に相談するなどしている。	利用者、家族の希望する従来からのかかりつけ医で受診しており、状況に応じて往診も受けている。通院支援は職員が対応し、市外の専門医への受診は家族対応を基本としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護を受けており、利用者一人ひとりの健康相談や早期の受診指導、食事内容や生活上での注意点などについて助言をもらい、適切に医療等が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族、病院、事業者間で話し合いを持ち、入居者が安心して治療に専念できるよう利用内容を共有したり、退院時期や退院後の生活面での注意点などについて話し合う関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、事業所で対応できる支援内容を説明し、また、家族の意向に沿って医療機関等と協力しながら方針を一緒に考え、共有していくよう取り組んでいる。	重度化対応指針を作成し、家族等に説明し同意を得ている。これまで看取りの事例はないが、利用者の状態に応じて家族の意向を尊重し、医療関係者との連携や方針を共有しながら、事業所としては家族等への身体的、精神的な支えとなるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が定期的に避難訓練を行い、地域の方にも参加してもらっている。	毎月職員会の後、消火訓練を行うとともに、年2回の防災訓練には1名の住民の参加がある。非常時の食料等の準備をしている。	災害時には地域の協力が欠かせないので、新興団地の特性もある中で地域資源の把握に努めるとともに、運営推進会議を通して地域に働きかけ、多くの住民の協力が得られる取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、対応や声かけを行っている。	利用者の自尊心を大切にした支援を心がけており、特に、言葉遣いに気になる対応が見られた時には、その都度職員間で話し合いをしながら確認するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の好みを取り入れ、料理の献立や味見に参加してもらったり、今何がしたいかなど、自己決定してもらおう機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせて、その人のペースに沿って過ごしてもらい、ホールでの席なども工夫して納得できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は基本的に自分で選んでもらい、季節感を感じられるよう職員がフォローし、その人らしい身だしなみを支援している。また、希望により化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き献立をたて、盛り付けや後かたづけなどを一緒に行い、食後には感想などを聞きながら、献立につなげている。時には外食に出かけたり、弁当を屋外で食べる機会も設けている。	利用者の嗜好も把握しながら献立を一緒に考えている。利用者は能力に応じて2～3日毎の食材の買い出しや味付け、片づけなどを職員と一緒にしている。また、利用者の状態に応じて食卓の席を見直すなど、和みながら食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事前にはお茶、ゼリーを出したりして、水分の摂取を確保するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけして、自力でできない方には職員が介助し、清潔を保っている。入れ歯の管理ができない方に対しては職員が朝まで預かるなどして、口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄のパターンを観察し、排泄の時間には声かけをして、できるだけトイレで排泄するよう誘導している。	利用者毎の排泄のパターンを把握し、行動や表情にも留意しながらできるだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄の拒否や頻尿などの場合は、時間を替えたり、職員が交替して声かけしたり、布パンツとパッドや紙パンツを使用するなど、工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、植物繊維の多い野菜や乳製品の摂取を心がけたり、水分補給、運動を増やすなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って入浴できるように支援している。	2時半から5時までを基本に、利用者の希望に沿って1日4～5名が入浴している。現在、入浴を拒否する事例はなく、全員2日に1回入浴している。また、利用者の状況に応じて午前中に入浴するなど柔軟に対応したり、排泄失敗時にはシャワー浴をするなど、清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出したりすると気持ちが不安定になり、寝られない方などは話し相手になったり、冷え性の方には夕方足浴を行ったり、その時々個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理して確実に服用できるよう、用法、副作用なども理解している。薬の内容が変更になった時は、ミーティングや申し送りノートなどで随時共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえ、計算ドリル、塗り絵、裁縫、洗濯物の片づけ、食器洗いなど、一人ひとりの得意なことを活かし、充実して過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人が昔住んでいた場所や入院している家族のお見舞い、友人の家への訪問など家族に協力してもらいながら、できる限り支援している。	気候や体調などに配慮しながら、利用者の希望に沿って毎日散歩したり、少人数でドライブに出かけている。また、弁当持参の季節の花見や行楽などに車椅子の利用者を他の利用者が助け合うなどして出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により少額の金額を保持しており、一緒に買物に行った時は自分で支払ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に沿って、職員が家族への電話の取次いだり、手紙についても大切な人とのつながりが途切れないよう積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窗からの自然の光が明るく部屋中を照らしており、ホールの大きな窓からは四季折々の草花が顔をのぞかせ、玄関や食卓には季節の花を飾っている。室内の温度調整をこまめに調整して季節に応じ過ごしやすいように心がけている。	リビングや廊下等の壁面には、利用者と職員が共同で作った七夕祭りの出展作品や幼稚園児からの贈り物などを飾り、季節の花や草花を活けており、家庭的な雰囲気の中でゆったりくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの他に玄関先、庭に椅子をたくさん置き、気の合う仲間同士が集まり話に花を咲かせたり、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、お気に入りの家具など本人が希望する物をできるかぎり持ち込んでもらい、居心地良い生活が送られるよう工夫をしている。	利用者にとって馴染みのある身の回り品や家族写真、衣装収納ケースなど、思い思いの物を持ち込み、家庭の延長として居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄用品の取り換えができるようトイレに準備したり、手摺をつけたり、居室入口に写真を飾り分かりやすくするなど、自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない